

はじめに

・中山間地域は、山と農村が一体となった人々の営み等を通じて水源かん養や県土の保全などの多面的、公益的な機能を発揮してきた魅力あふれる重要な地域である。
 ・一方で、人口減少や高齢化が進んでおり、基幹となる農林業の担い手も減少していることから、地域活動の維持・継承が困難となることが予想される。
 ・本県では、「やまの健康」推進プロジェクトや、しがのふるさと支え合いプロジェクトなどを推進するモデル地域を選定し、地域資源の利活用や企業や大学などの多様な主体との協働の取組を支援するなど、農山村の価値・魅力を活かした中山間地域の振興に取り組んできた。
 ・これらのモデル地域では、地域の特色を活かした様々な取組が展開され、賑わいの芽が出つつあることから、これまでの取組から導き出された活性化の視点や活用できる制度等を取りまとめ、多くの中山間地域で幸せ(元気)が生まれることを目的に本ガイドブックを作成した。

第1章 中山間地域の目指すべき姿

1 目指すべき姿(基本目標)



森林・農地・農山村を一体的に捉え、森林・農地の適切な維持・管理を通じて多面的機能が持続的に発揮される姿。併せて、自然からの恵みを持続的に享受することで、農山村と都市とが支え合い、自然と共生する健康で幸せな暮らしを送っている姿。



2 中山間地域振興の基本的な考え方

農林業と農山村に人が住み続けるための環境を整えるとともに、森林や農山村の価値と魅力に焦点をあて、その地域の実情に応じた資源を最大限に活かしたモノ・サービスにより、経済循環や多様な主体との関わりを創出する。

【ガイドブックの位置づけ】

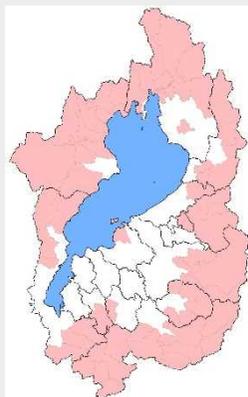
地域住民が主体となって行う、農山村の価値や魅力を活かした取組を進めるための道標(指針)

※関連する計画等・・・滋賀県農業・水産業基本計画、琵琶湖森林づくり基本計画等

【ガイドブックの対象地域】

- 以下の中山間地域
- ・地域振興立法指定地域
- ・農林統計上の「中間農業地域」「山間農業地域」

本県の中山間地域(令和4年度末時点) →



3 中山間地域の価値や魅力を後世に引き継ぐために ～活性化に向けた課題解決の視点～

本県が取り組んできた経験から、以下の四つの視点に分類し活性化に向けた取組の方法を記載

視点① 地域に関わる人を増やしたい

- ☆ 地域のファンを増やし、新たな仲間を受け入れる
- ☆ 企業や大学等の多様な主体との協働に取り組む
- ☆ 農林業等の地域を支える担い手を確保する

視点② 地域に安心して住み続けたい

- ☆ 近隣集落と連携するなど地域の共同活動の強化に取り組む
- ☆ 集落の環境整備に取り組む
- ☆ 地域の実情に応じた土地(農地)活用に取り組む

視点③ 地域資源を活かした産業や地域力を育てたい

- ☆ 農山村の地域資源を活かした産業づくりに取り組む
- ☆ 地域の価値ある資源を体験・体感できる滋賀らしいツーリズム(シガリズム)に取り組む

視点④ 農林業を将来にわたり持続的なものにした

- ☆ スマート農林業に取り組む
- ☆ 農林業等の生産基盤整備に取り組む
- ☆ 環境こだわり農業・オーガニック農業に取り組む

第2章 地域活性化の取組事例

地域活性化の取組が実施されている代表的な地域について記載

- ・(大津市 葛川地域) 自然に寄り添う山里の暮らしを引き継ぎたい
- ・(栗東市 金勝地域) 自由な発想で「住みやすく、人が訪れる集落」をつくる
- ・(甲賀市 岩室地域) 若手等の参画による集落営農法人の活性化
- ・(米原市 大野木地域) 担い手の営農の効率化に向けた農地の集約化
- ・(米原市 伊吹北部地域) 集落で連携して地域資源を活用し、地域を守る
- ・(甲賀市 大原地域) 森林空間を活かして新たな賑わいづくり
- ・(甲賀市 牛飼地域) 生産基盤の整備とともに田んぼアートで話題づくり
- ・(東近江市 百済寺地域) 地域住民による、まぼろしの銘酒「百済寺樽」の復活
- ・(多賀町 多賀地域) 町産木材を活用した地域内循環への挑戦
- ・(高島市 鶴川地域) 琵琶湖が見渡せる棚田の賑わいを取り戻す

第3章 役割分担

県民、民間企業・大学・NPO等、市町、県 別に役割を記載

第4章 活用できる制度

第1章3の視点別に、活用できる主な県の制度を記載